

日本技術士会 中部本部 岐阜県支部設立準備会

平成27年度5月講演会メモ

日時：平成27年5月9日（土） 13:00～17:00

場所：岐阜大学 サテライト・キャンパス（岐阜スカイウイング37 東棟4階）

後援：岐阜大学工学部、岐阜工業高等専門学校

出席者：会員20名、非会員8名、計28名

司会：大谷幸一

13:00～13:45 森川・新代表幹事挨拶



挨拶する森川・新代表幹事

1. 岐阜県技術士会が3月末で解散した後、新年度になって最初の活動になる。今回、中部本部の同報メールで案内を出したことによって新しい参加者が8名増えた。中部本部内の諸手続きを得て、「日本技術士会・中部本部・岐阜県支部」が正式発足する10月までは次のような立場で活動する。
 - ・中部本部の岐阜県内での活動とする。
 - ・会計書類の宛名は「中部本部（岐阜県関連）」として会計処理する。
 - ・必要な運営費は中部本部より岐阜県技術士会の口座に振り込まれる。
 - ・口座名義は、正式発足までそのまま、代表者名を森川に変更する。
 - ・岐阜県技術士会からは564円を引き継いでいる。
 - ・活動案内は中部本部の同報メールを使う。
 - ・行事案内は同報メールを基本にするが、旧岐阜県技術士会のメール配信システムも維持する。
 - ・岐阜大学、岐阜高専との共催の承諾は正式発足時に改めて手続きを取る。
2. 森川・新代表幹事から次の提案と報告があり、参加者全員の拍手で承認された。
 - ・平成26年度の会計報告。収入132万5313円に対して支出132万4749円。次期繰越金564円は新組織に引き継ぐ。
 - ・岐阜県支部発足までの間、当会の名称を「日本技術士会中部本部・岐阜県支部設立準備会」とする。
 - ・当面、9月までは講演を一つだけにして、他の時間は参加者の自由討論の場とする。

13:45～15:00 会員各位の近況報告会と会員相互の意見交換会

以下のように着席順に発言。

中平：新幹事として公益法人化、岐阜県支部化を機に活動拡大化を目指して魅力ある講演会にしたい。特に中部本部管理下の運営資金を最大限に活用し、また岐阜県士業連絡協議会を介して関連士業協会や岐阜県工業会などのホームページとリンクさせて当会の活動をアピールしたらどうか。最新の技術を生かして社会ニーズにマッチした商品開発やビジネスを紹介するような講演会が考えられる。会員が競い合って講師に応募し、40～50名が聞きに来る講演会、講師も聴講者も輝く講演会を目標にしたい。

富田：5年前に55才で技術士資格を取り、「若手のホープ」として入会を勧められたが、今や60才になった。幹事として技術士の社会的認知度、地位を高めるような活動を目指したい。技術士の責務・義務をしっかり果たすことが重要で、その一つであるCPDについて個人的に努力している。CPD認定会員になってゴールドカードを取得した。体育指導員手帳を改造した独自の「技術士手帳」を持ち歩いている。

大谷：油圧機器企業を退職後、別の会社に勤務して商品開発、技術が判る人材育成などを担当している。技術だけでなくビジネスと結びつく話題をもっと当会で取り上げて欲しい。

脇田：最近、農業部門の技術士になった公務員。以前ここでミツバチについて講演させて頂いた。ここで自分の専門分野以外の技術士の方々との交流を通じて視野を広め仕事に役立てたいと思っている。

牧：今年、建設部門で技術士試験に合格したばかり。建設コンサル会社に長年勤務した後、橋梁の施工・管理の会社に転職。愛知県だが今日はCPDの目的で参加。

高木(俊一)：25年前に技術士資格を取ったが会社勤務で技術士資格はほとんど役に立たなかった。定年退職後に技術士事務所を立ち上げたものの全く仕事がなかった。一般向けの講演では、難しい内容を誰でも理解できる易しい話にする必要がある。当会の活動をビジネスに結びつけることと、個人プレーになりがちな技術士が組織化して業務開発することが25年前からの課題。

高橋：40歳で建設部門の技術士資格を取った。建設業界においても技術士の知名度は低い。今も現役で忙しいが、当会の新幹事として活動に貢献したい。

安田：経営工学部門。3年前に企業を定年退職後、事務所を開設して中小企業の管理者育成を指導。あちこちの中小企業を見ているが日本の現場力はもはや一流でない実感。このままでは中国や東南アジアに負ける。技術士が組織的に中小企業を支援する活動が必要。

小川：建設部門で建設コンサル会社に勤務。会社は人材不足で苦勞している。仕事は徳山ダムなどダムの管理業務を担当。ここは技術士という共通の資格を絆にした垣根のない自由な雰囲気、この絆を仕事に活かしていきたい。

渡邊(直哉)：経営工学部門。新幹事として当会に活動に尽力したい。岐阜市内で設備工事会社を経営。会社経営で忙しくて技術から遠ざかっているため当会で技術の話聞くのが楽しみ。岐阜市が建設中の図書館複合施設「みんなの森ぎふメディアコスモス」の空調設備や岐阜駅前の噴水などを施工。

渡邊(好啓)：機械部門。技術士資格が直接ビジネスに結びつかない。企業などの困った問題を技術的に解決してあげた後に「あの人は誰？」と聞かれて「技術士です」と言われるようにしたい。技術士を前面に掲げて直ぐに評価を求めるのではなく、仕事の積み重ねによって後から評価が追いかけてくるようにして技術士の社会的認知度が上がってくる。過去に技術士資格を売り物にビジネスを立ち上げて失敗した苦い経験がある。

村橋：上下水道部門で愛知県技術士会に所属。5年前に企業を退職して独立し名古屋駅前で環境デザイン会社を立ち上げた。自宅の岐阜県伊自良村は典型的な限界集落なので消滅の危機から救う方を日夜模索。

森：上下水道部門で三重県技術士会に所属。土木職の三重県職員。四日市の工業用水を木曾三川から取水する事業などを経験。現在、水資源機構に勤務して水道事業を担当。技術士資格を取ったのは建設コンサルと対等に議論する技術力を目指したことと技術士会で幅広い知識を得るため。今日は中部本部の同報メールで知って参加。10月に発足する三重県支部の幹事に就任予定。

滝野：4月で70才になった。今やっていることは孫の遊び相手。企業退職後、高知工科大学の教授を務め、その間に学位を取って1年前に岐阜へ戻ってきた。4月から岐阜大学工学部で品質工学の講師。バブル崩壊後、社内教育を十分に行わない企業が増えたため大学でしっかりした教育が求められている。

田島：航空宇宙部門。企業退職後、60才過ぎてから技術士資格を取得して名刺交換が急増した。現在、

統括本部の理事、倫理委員会副委員長、海外活動支援実行委員会委員を担当。倫理委員を機に 60 年前のコミット・ジェット連続墜落事故の調査報告書原文を初めて精読して「目から鱗」。技術士会活動に時間を随分費やしているが思いがけない縁を楽しんでいる。趣味は昆虫採集（ハチのみ）。

中山：航空宇宙部門。技術士としての活動ができなくなってきていると実感し技術士活動は休眠中だが講演会などの行事に参加するのみ。ゴルフが最大の趣味。先月の中部本部ゴルフ大会で杉本技術士がホールインワンしたがセルフプレーのため証人で揉め、結局、技術士会の名前が信用を得て承認された。

長谷川：森林部門。退職後に技術士資格を取得。現在、コンサル会社に勤務して治山や林道など森林土木事業に関係、71 才で社内最高齢。所属する中部本部の独立技術士小委員会から講演を依頼され、ただ今、パワーポイントを勉強中。

吉川：機械部門（材料力学）。で愛知県技術士会の所属。中部本部の同報メールで今日の行事を知って参加。愛知県技術士会で県支部設立プロジェクトを担当しているため岐阜県支部設立の経過を参考にしたい。この 3 分間スピーチは面白い企画。仕事は航空機の治工具、搬送設備、試験装置の設計・製造。他に新入社員の技術教育も担当。専門の材料力学による社会貢献として、一般向けに安心・安全のための強度保障知識の普及などを考えている。

湯口：建設部門（道路）。現在 73 才。58 才で岐阜県職員を早期退職し建設コンサルに入社してから技術士資格を取得。仕事は道路の企画で用地問題、環境問題、安全性、コストなどあらゆる要素を考慮した。機械製図が好きだったせいもあり、トンネルのシールドや内燃エンジンなど思いがけずに特許を 3 件取得。

高崎：建設部門。岐阜県の土木職員の時に技術士資格を取得。岐阜県技術士会で多くの異業種技術士を知り勉強になったこと、全国大会開催で奔走した思い出など、良かったと思っている。母校の岐阜高専で技術士として授業支援して学生が技術士 1 次試験に多数合格し新聞記事になった。建設部門でも 5 S の重要性を認識して説いている。元気、長生き、人のための尽くす、を老いの目標にしている。

佐藤：森林部門。中部本部の同報メールで岐阜大学の沢田先生の講演を知り参加。森林土木の建設コンサル会社に勤務して土砂崩れなどの斜面災害の調査・設計を業務にしている。転勤族だが現在は名古屋支店勤務で岐阜県も管轄。このような機会に今後できるだけ参加していきたい。

荻須：建設部門。NPO 法人の G S G G を運営しているが、なかなか思うように上手くいかない。今年度の事業目標として e・ラーニング関連を考えている。個人としては技術士仲間とともに技術士受験指導を行っている。1 月に技術士仲間 3 人で念願かなって酷寒のハルピンに行つて一 2 1 度を体験し、7 3 1 部隊（石井部隊）の跡地にも行った。

平松：先日、応用理学部門（地質）で技術士補の資格を取得し、今後は技術士を目指して勉強したい。岐阜大学の深川先生の紹介により今日で 3 回目の参加。技術士会への要望として、もっと若い人、特に技術士補と修習技術士の方の参加を増やして欲しい。そのような若い人が参加し易い雰囲気作りに協力したい。1 月の箕浦先生の太陽光パネルの講演は夢のある話で面白かった。このような夢のある講演が増えれば若い人に参加が増えるのではないか。（修習技術士の平松 圭 氏と夫妻で出席）

（休憩）

15:15 ~ 16:55 来賓講演

演題 「社会人の学び直し事業から考えられること」

講師：岐阜大学 工学部附属インフラマネジメント技術研究センター 教授 沢田 和秀 氏

講師紹介：研究分野は、斜面地等の 3 次元計測と解析と地盤災害対策。UAV（無人機）による地形計測も含む。

講演内容：岐阜大学と岐阜県は、平成 20 年からインフラの維持管理を担う技術者の育成に取り組んで来た。地域の大学として実施してきた産官学協同による土木技術者の学び直し事業を紹介するとともに、事業の継続と発展に関する課題を考察する。



講演する沢田教授

- 公共事業は、その昔、「みんなのために、みんなで作って、みんなで感謝して使った」ことがはじまり。今は、「国民が信託した政府が、市場(民間業者)から調達して、国民が使う」構図だが、政府が常に正しいとは限らない。政府と業者の関係の「見える化」が必要であり、大学で研究、試行中である。また、「道路は通れるのが当たり前」として「感謝して使われる」ことはなく、一般市民に直接的な利益を理解されにくい。
- 国の豊かさの指標であるGDPは、労働人口、社会資本、民間資本、によって決まる。社会資本は公共事業投資によって決まる。1990年代後半からの日米の公共事業投資を比較すると、米が増加したのに対し日本は減少し、その間のGDPは米が増加したのに対して日本は横ばい。社会資本の老朽化対策が喫緊の課題になっても日本の公共事業投資は抑制されたままになっている。
- 日本の公共事業投資は1960年代の高度成長期から1998年のピークまで右肩上がり急増した後、減少へ転じ昨年度の国の公共事業費は5兆9685億円で一般会計の6.2%。東日本大震災を機に防災関係、笹子トンネル事故を機に老朽化対策が急務に。他方、政府と自治体の財政はひっ迫状態のため、公共事業投資を抑制しながら重点的・効率的に配分せねばならなくなる。
- 公共事業の減少に伴い建設業就業者数も1997年の685万人をピークに2013年には499万人に減少し、その後も減り続けている。また他産業よりも高齢化が進んでいる。
- 道路など高度成長期に整備された日本の社会資本は老朽化対策に直面している。更に地震・風水害などの自然災害にも対処せねばならない。老朽化対策については笹子トンネル事故を機に喫緊の課題として顕在化し、平成25年は「メンテナンス元年」となった。
- 建設後50年以上経過している社会資本は、17年後の平成44年には道路が65%、トンネルが45%、水門など河川管理施設が62%、港湾岸壁が56%に達する。
- 地方公共団体でメンテナンス業務に関わっている土木技術者が不足。市区の14%、町の46%、村の70%ではメンテナンスの土木技術者がゼロ。
- 社会資本のメンテナンスは、その地域の道路や橋の状況を最も熟知している地元の建設業者が「町医者」的な役割を担うようにすることが最も効果的。そのような人材育成事業を行政が行うことは受注業者へのコンプライアンス上難しい。他方、大学は受発注の利害関係がなく高度で専門的で平等なカリキュラムによって行政と業者の土木技術人材を育成できる。ここに地方大学の担うべき役割がある。
- 岐阜大学では、インフラマネジメント技術研究センターにおいて、「社会基盤メンテナンス・エキスパート(ME)養成講座」を開設。受講生は4週間の集中講座を経てME認定受験資格を得た後、「社会基盤メンテナンス・エキスパート(ME)養成ユニット運営協議会」による認定試験に合格してMEになる。これまでに249名のMEを輩出。今後の3年間で400名に増員する計画。また、岐阜県のME制度を全国に拡大することも計画。
- ME養成講座を通じて、「技術と技術力による人のつながり」や「現場の課題を大学へ持ち込む」とい

う目に見えない効果も生まれている。

- ME認定者の同窓会組織「MEの会」では、勉強会によって技術の研鑽を継続している。絶えず学び考えることは技術者に必須。その好事例として平成25年に神岡で起きた国道41号の落石事故がある。落石の原因、付随事故の可能性と対策、対策が困難な場合は、必要な金と時間は、等々を考え、答えを出さねばならない。
- まとめ：①土木屋の仕事を知る ②日本の風土と社会資本整備を知る ③地域のことを理解する ④できることから継続して実施する ⑤技術を核として存在すべき ⑥技術だけでは継続できない ⑦学ぶモチベーションを持ち続ける工夫が必要 ⑧つながりを持つための中心が必要 ⑨学ぶ機会と場所を確保し続けることが重要

Q&A

Q：公務員は、せっかくMEを取得しても翌年は土木とは関係のない福祉部門に配転というケースもありそうだが。

A：民間人のMEを多く育成していくべきだと考える。

会員連絡

今後の行事予定：

岐阜県技術士会

7月4日(土) 7月講演会 於 岐阜市生涯学習拠点 ハートフルスクエア G研修室50
(JR岐阜駅正面改札口から駅構内東へ徒歩2分)

中部本部

6月6日(土) 独立技術士小委員会との合同見学会

場 所：東山動植物園、動物会館・園内

参 加 費：500円

集合場所：東山動物園内動物会館(正門から直進約150m右側)

参加申込み：臼井 hide296sen@gmail.com または 090-5626-0845

7月12日(日) 臨時役員会 於 中部本部

7月19日(日)～20日(月・祝) 技術士二次試験

その他の行事予定

6月9日(火) 岐阜県商工労働部・地域情報交換会 於 岐阜県庁

6月12日(金) 岐阜県工業会総会・記念講演会・交流会 於 岐阜グランドホテル

7月8日(水) 岐阜県士業連絡協議会 総会 於 岐阜会館

懇親会 17:30～19:30 於 「居酒屋 のほほん」

参加者：18名

以上 田島 記